



指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の実態を適切に把握する。</li> <li>○児童が主体的に学習に取り組む環境づくりと資料の精選・発問の工夫を行う。</li> <li>○学力調査の結果を分析して、課題となる学力の定着を図るため、東京ベーシックドリルなどを活用して、児童の実態に即した指導を行う。</li> <li>○一人1台のタブレット端末を活用し、児童の能動的な学びを促し、主体的・対話的な深い学びによって、未来を創る資質や能力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が活躍し達成感あふれる行事の精選を通して、ゆとりある授業時数を確保する。</li> <li>○PTAの読み聞かせを計画的に実施し、心の情操を図る。</li> <li>○学期末に個別指導日を設定し、放課後に学力補充等の個別指導を行う。</li> <li>○学校関係者評価、保護者の評価を生かして、教育課程を編成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究を充実させ、教員の指導力向上を図る。</li> <li>○児童の学習意識調査の結果等を活用しながら、授業改善推進プランの見直しと作成を行う。</li> <li>○小中一貫教育の取り組みを通して作成した課題改善カリキュラムを活用して、教育活動を計画、実施する。</li> <li>○若手教員をはじめ全教員の指導力向上に向け、計画的に研究授業や校内研究、定期的にOJT研修会を実施し、一人一人が課題を把握しながら、業務及び授業改善につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価計画を踏え、評価規準を作成する。</li> <li>○学校公開の設定と参観者アンケートにより、授業および学校の教育活動についての外部評価を実施する。</li> <li>○児童による授業評価および意識調査を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科や総合的な学習の時間を中心にして、地域人材の活用を図る。</li> <li>○学校評議員との連携により、学校改善を推進する。</li> <li>○青少年育成委員等の地域の方々を招いて道徳授業地区公開講座を開催する。</li> <li>○地域の人材を活用した、放課後「はなまる教室」で、算数科を中心にした、補充教室を実施する。</li> </ul>

# 令和6年度 授業改善推進プラン【学習状況】

## ～全国学力・学習状況調査のまとめ～

練馬区立上石神井北小学校

R6.09.01 教務

令和6年度全国学力・学習状況調査における本校児童の肯定的な回答率が低い設問は以下の通りであり、その克服を課題とする。

- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- ・ 将来の夢や目標を持っていますか
- ・ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- ・ 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- ・ 解答時間は十分でしたか

以上のことを鑑みて、課題を解決する方策を提案します。

.....

全国学力・学習状況調査において肯定的な回答率が低い設問からは、いくつかの共通点や傾向を見出すことができる。これらを分析し、指導の工夫を提案する。

### 1. 共通点や傾向の分析

#### (1) 認識と自己肯定感の不足

- ・ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の回答が低い場合、児童が自分の長所を認識しにくい、または教師からのフィードバックが不十分である可能性がある。

#### (2) 将来のビジョンと目標の不足

- ・ 「将来の夢や目標を持っていますか」が低い場合、児童が将来について考える機会が少なく、具体的な目標設定を促進する取り組みが不足している可能性がある。

#### (3) 表現力や発表スキルの不足

- ・ 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」が低い場合、発表スキルや自分の考えを伝えるための準備や工夫が不足している可能性がある。

#### (4) 学習方法の多様性や適切性の不足

- ・ 「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」が低い場合、児童の個々の学習スタイルやニーズに応じた指導がされていない可能性がある。

## (5) テストの解答時間に関する不満

- 「解答時間は十分でしたか（国語・算数）」回答が低い場合、テストの時間配分や児童が試験問題に対処する方法に課題がある可能性がある。

## 2. 指導の工夫

### (1) ポジティブなフィードバックと自己認識の促進

- 定期的なフィードバック: 児童一人一人に対して、具体的な良い点を指摘し、ポジティブなフィードバックを提供する。
- 自己評価シートの導入: 児童が自分の良い点や進歩を振り返るための自己評価シートを導入し、自己認識を高める。

### (2) 将来の夢や目標設定の支援

- 目標設定の授業: 目標設定や将来のビジョンを考えるための授業やワークショップを実施し、児童が具体的な目標をもつための支援を行う。
- 職業体験やゲストティーチャー: 将来の職業について学ぶ機会を提供し、児童が自分の将来に対するビジョン（vision）を描く手助けをする。

### (3) 発表スキルの向上

- 発表練習の機会: 授業やクラブ活動で、発表の機会を頻繁に設け、プレゼンテーションスキルを磨く。
- ロールプレイやグループ活動: グループでのディスカッションやロールプレイを通じて、考えを効果的に伝える方法を学ぶ。

### (4) 個別対応の強化

- 個別指導とサポート: 個々の学習スタイルやニーズに応じた個別指導を行う。特に、学習障害や特別支援が必要な児童に対しては、適切な支援。個に応じた指導を提供する。
- 学習スタイルの多様化: 様々な学習スタイルに対応する教材や方法を導入し、児童一人一人に合ったアプローチを検討する。

### (5) 試験時間の管理と対策

- 模擬試験の実施: 試験形式や時間配分に慣れるための模擬試験を実施し、時間管理スキルを向上させる。
- 解答戦略の指導: 試験の解答戦略や時間配分についての指導を行い、児童が試験に対して効果的に対処できるようにする。

これらの工夫を通じて、児童の肯定的な回答率を向上させるとともに、学力の向上や自己肯定感の促進につなげていけると考える。

# 令和6年度 授業改善推進プラン「国語」

## ～全国学力・学習状況調査のまとめ～

練馬区立上石神井北小学校

R6.09.01 教務

令和6年度全国学力・学習状況調査における本校児童の正答率が東京都の平均を下回っている国語の問題は以下の通りであり、その克服を課題とする。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題。</li><li>・ 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題。</li></ul> |
|--|

以上のことを鑑みて、課題を解決する授業の工夫や方策を提案する。

.....

以下の方策を提案する。これらの方策は、特に「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題」と「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題」に対応するためのものである。

### 1. 目的や意図に応じた材料の分類・関係付け

#### A. 授業の工夫

- ・ **事例分析:** 教科書や資料集から、実際の文章やデータを使って、目的や意図に応じて材料を分類する活動を行う。例えば、新聞記事やエッセイの中から、どの情報がどのように分類されているのかを分析し、分類基準について議論する等である。
- ・ **グループ活動:** グループに分かれて、指定されたテーマに基づいて情報を集め、その情報を分類・整理し、発表する活動を行う。このとき、分類の基準や理由を説明させることが重要となる。
- ・ **ワークシートの使用:** 分類や関係付けの練習ができるワークシートを用意し、反復練習を行う。具体的な例を使って、各情報がどのように関連しているかを視覚的に理解させることが重要となる。

#### B. 教材の充実

- ・ **資料集やツール:** 情報の分類や整理に役立つツール（マインドマップやフローチャートなど）を導入し、実際に試してみることで理解を深めることを試みる。
- ・ **具体例の提示:** 成功例や具体的なケーススタディを提示し、どのように情報が整理され、目的に応じて伝えられているのかを示し、模倣させる。

## 2. 主語と述語の関係の把握

### A. 文法教育の強化

- **文法の基礎:** 主語と述語の基本的な文法知識を再確認し、文法のルールについて理解を深める。特に、日本語特有の主語省略や述語の位置についても触れる。
- **文構造の分析:** 文の構造を分解し、主語と述語の関係を視覚的に示す練習を行ったり、文を分析し、主語と述語を特定する練習を繰り返したりする。

### B. 実践的な練習

- **文作成活動:** 児童に対して、自分で文を作成させ、その文の中で主語と述語の関係が明確になるように意識させる。例えば、与えられた主語や述語を使って文を作る練習等を行う。
- **対話形式の練習:** 主語と述語の関係を理解するために、対話形式で文を作成し、お互いに文を修正し合う活動を行う。

### C. 指導方法の改善

- **フィードバックの充実:** 児童が作成した文に対して、どの部分が主語と述語の関係が不明瞭であったかを具体的に指摘し、改善点を説明する。
- **多様な問題形式:** 主語と述語の関係を把握するために、さまざまな形式の問題（穴埋め問題や文の並べ替え問題など）を提供し、異なる視点から理解を促進する。

## 3. 評価とフォローアップ

- **定期的な評価:** これらの方策を実施した後、定期的に児童の理解度を評価し、進捗状況を把握する。理解度に応じた追加のサポートを提供する。
- **保護者との連携:** 家庭でも理解を深めるためのサポートができるよう、保護者に対しても情報提供や支援を行う。

これらの方策を通じて、児童が目的や意図に応じた材料の分類や関係付け、そして主語と述語の関係をより正確に理解し、克服できるようサポートする。

# 令和6年度 授業改善推進プラン【算数】

## ～全国学力・学習状況調査のまとめ～

練馬区立上石神井北小学校

R6.09.01 教務

令和6年度全国学力・学習状況調査における本校児童の正答率が東京都の平均を下回っている算数の問題は以下の通りであり、その克服を課題とする。

- ・ 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題
- ・ 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題
- ・ 直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題
- ・ 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題
- ・ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題

以上のことを鑑みて、課題を解決する方策を提案する。

.....

上記の課題を解決するためには、具体的な学習方策を取り入れることが重要となる。以下に各課題に対する授業の工夫や方策を提案する。

### 1. 数量の関係を□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題

- ・ **例題の導入と解説:** 数量の関係を式で表す問題に関する具体的な例題を多数用意し、解説する。具体的な状況を設定し、□を用いた式の立て方を丁寧に説明する。
- ・ **グループワーク:** 生徒たちにグループで問題を解かせ、互いに教え合う活動を行うことで深い理解を図る。
- ・ **視覚的なサポート:** 問題を図や表にして視覚的に理解できるようにする。数量の関係を視覚化することで、式を立てる感覚を養う。

### 2. 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題

- ・ **小数を用いた除法の基礎学習:** 小数を用いた除法の基本的な計算方法と、それが商にどのように影響するかについて詳しく学習する。
- ・ **視覚化ツールの活用:** 除法の問題をビジュアルで説明できるツールやアニメーションを使用して、深い理解を図る。

- **問題解決のシミュレーション:** 様々な小数を用いた除法問題をシミュレーションし、除数と商の関係を把握する練習を行う。

### 3. 直方体の見取図について理解し、描くことができるかどうかをみる問題

- **立体図形の基礎:** 直方体や他の立体図形の基本的な特徴を学ぶ際に、直方体の各面とその相対的な位置を丁寧に指導し理解させる。
- **描画の練習:** 直方体の見取図を描く練習を繰り返し行う。模範解答を示し、実際に描いてみることで理解を深める。
- **立体図形と平面図の関連性:** 立体図形とその見取図の対応関係を視覚的に示し、理解を助ける教材や練習問題を活用する。

### 4. 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題

- **基礎の再確認:** 小数を用いた除法の基本的な計算方法を再確認し、特に小数点の動かし方に焦点を当てる。
- **反復練習:** 多くの小数を用いた除法問題を解くことで、計算スキルを向上させる。
- **計算ツールの使用:** 電卓や計算機を使って、実際の計算とその結果を確認し、計算手順を理解させる。

### 5. 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題

- **折れ線グラフの基本:** 折れ線グラフの読み方や、データをどのように読み取るかについて基礎から学ぶ。
- **問題解決の練習:** 折れ線グラフから情報を引き出し、条件に基づいて説明する練習を行う。具体的なデータを使用して実際の問題を解決する。
- **グラフ作成と解析:** 自分で折れ線グラフを作成し、分析することで、グラフに対する理解を深める。

これらの方策を実施することで、各分野の理解度を高め、課題を克服するための効果的なアプローチが可能になると考える。